

## V 標準化会議の事業報告

### 1. 概要

標準化会議は、会員ニーズに基づく積極的な規格原案作成活動を進めた。国内標準化活動では、JIS 3規格の改正作業中である。JSMA規格も例年並みに制定・改正作業を進め4規格が発行できた。国際標準化活動では10月に第12回ISO/TC227ばね国際会議をオーストリア、ウィーンにて開催した。Pメンバ12ヶ国中、8ヶ国23名が参加した。日本から提案した「皿ばね第1部:計算式」はFDIS段階を飛ばし発行段階へ移行することが可決された。3月に無事発行された。一方「皿ばね第2部:技術仕様」は国際会議後にDIS投票にかけられ承認された。

### 2. 会議の開催

| 会議           | 日程・場所                | 主な議案   |
|--------------|----------------------|--|
| 第1回<br>標準化会議 | 平成28年6月8日<br>機械振興会館  | 1.国内各規格開発(JIS、JASOおよびJSMA)活動内容審議<br>2.ISO/TC227ばね活動報告および審議                         |
| 第2回<br>標準化会議 | 平成28年9月23日<br>機械振興会館 | 1.国内各規格開発(JIS、JASOおよびJSMA)活動内容審議<br>2.ISO/TC227ばね活動報告および審議                         |
| 第3回<br>標準化会議 | 平成29年2月8日<br>機械振興会館  | 1.国内各規格開発(JIS、JASOおよびJSMA)活動内容審議<br>2.ISO/TC227ばね活動報告および審議<br>3.今年度活動の総括と来年度活動計画審議 |

### 3. 活動の詳細

#### (1) 国内規格関係

##### ① JIS 規格関係

3規格の改正原案作成を進めた。4月からは、B2704-1「コイルばね-第1部:基本計算方法」およびB2704-2「コイルばね-第2部:仕様の表し方」の改正原案作成を進め、2月に日本規格協会へ書類一式を提出した。コイルばねの規格は、これまで3部構成のB2704-1～3(圧縮コイルばね及び引張コイルばね)と2部構成のB2709-1～2(ねじりコイルばね)の2規格5分冊であったが、今回の改正で3種類のばねをまとめた1規格2分冊となり、ユーザーの利便性も向上する。また、12月からは、B1251「ばね座金」の改正原案作成を進めており、2017年10月に改正原案を提出予定である。

線材製品協会からの要請により、ばね工業会から3名の委員が就任し、12月よりG3521「硬鋼線」の改正原案作成を進めている。

##### ② JASO 規格関係

自動車技術会規格委員会要素部会の活動に参加し、小改正作業および分科会活動等を進めた。なお、前年度改正作業を進めていたF302「波形ばね座金」が改正発行された。

##### ③ JSMA 規格関係

今年度は以下に示す4規格の制定・改正原案作成作業を進めた。12月にSC003「高張力座金」およびSZ001「日本ばね工業会規格制定・改廃規程」の2規格、また3月にSA006「トレーリングリーブ」およびTRD004-1「ばねの測定および試験方法-第1部:圧縮コイルばね」の2規格をそれぞれ制定・改正発行した。

## (2) ISO 規格関係

### ① 第12回ウィーン国際会議

日本からは相羽国際幹事以下8名が出席した。10月20日、21日の2日間開催され、1日目はワーキンググループ会議、2日目は本会議が行われた。日本提案の「皿ばね」案は、2部制となっている。第1部は計算式、第2部は技術仕様である。

第1部は国際会議以前に行われたDIS投票で可決された。ウィーン会議ではFDIS段階を飛ばし発行段階へ進めることが可決された。3月に無事発行された。

第2部は、第2部CD案を更に2パートに分ける(2つのグレードに分ける)という討議があったが、2つのグレードを併記する結論に落ち着いた。国際会議後にDIS投票にかけられ承認された。

平成29年度の第13回国際会議は、タイ(開催都市はバンコク)で実施することを決議した。その他の議題としてはドイツが試験法の新規提案を出してくる予定である。

この活動には、政府制度の国際標準開発事業のツールを活用し、経済産業省、株式会社三菱総合研究所の支援を頂きながら実施した。